

1. 大水害の記憶



あの日から50年。写真だけでは伝えきれない惨状を語っていただきました。

福江大水害の惨状

福江川から氾濫した濁水は一瞬にして、大切なものを奪い去りました。



土のうによる水害からの復旧作業



救助作業

福江大水害の復旧と支援



復旧に励む自衛隊員



救援物資

① 体験者談

川端 弘さん 73歳



「お地藏様につかまり助けを求める母親の声は
50年経った今でも耳に残っています」

移設されたお地藏様
(大円寺境内)



9日、日曜日の朝でした。降り続く雨はだんだん激しくなり午前9時頃、サイレンの鳴る中、旧大正橋を福江消防団員が大円寺の方向へ走っていくのを見た私は、何事かあったのではないかと思い大円寺へと向かいました。

大円寺の小高い丘では人が集まり、氾濫する福江川を見ていました。

集まった人々と共に私が見たのは、母親と母親に背負われた子ども、それに、一緒に生活していたお手伝いさんの3人が逃げ遅れ、福江川の土手にあったお地藏様に必死にしがみつき、助けを求めている姿でした。

消防団員も必死になってロープを渡そうとしますが、上手くいかず時間だけが過ぎていきます。救助を見守る人々もその状況を目のあたりにして涙を流し見守ることしかできませんでした。

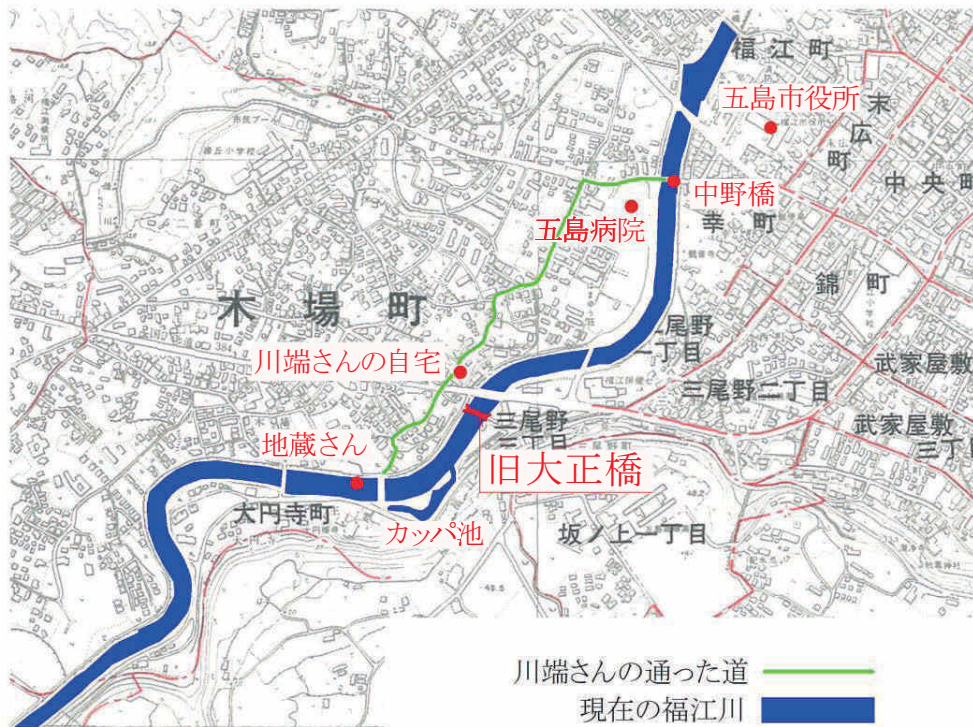
その時です。上流から大きな杉の木が流れてきて、ドーンとお地藏様にぶつかりました。助けを求めていた3人は、あっという間に濁流に呑み込まれ、流されて行くという最悪な状況となってしまう、消防団員も周りの人々もなすすべはなく涙を流して悔しがるだけでした。

「子どもだけでも助けて」と叫ぶ母親の悲痛な声はいまだに私の耳に残っています。悲惨であまりにも残酷な光景でした。

午前11時頃、私は下流にある開田の親戚の家に向かう事にし、中野橋付近まで歩いていくと、水位が下がってきたためか、多くの人たちが橋の上で氾濫の様子を見つめていました。

中野橋のたもとにあった親戚の店は濁流に呑み込まれていましたが、親戚家族は自宅に避難して無事であることが分かり安心したので、自分の家に戻ることにしました。

川端さんの経路図

子どもを見つけた
中野橋

昼12時頃、自分の家に向かって中野橋を渡っていると、流れついた木の枝の中から子どもの手が見えたのでびっくりして手を引いてみると、腕や体がついてきたので、急いで知り合いと二人で引き揚げました。

子どもの体温を感じた私は、急いで背負い五島病院に向かって走りました。背負われた拍子におなかを圧迫したのか私の背中に呑み込んだ水を吐き出しましたが、かまわず走り病院へ運びました。1時間にも及ぶ人工呼吸をしたにも関わらず死亡が確認されたと聞きました。

後でわかりましたが、大円寺のお地藏様にしがみつき助けを求めていた母親に背負われていたあの子どもさんでした。

その後、母親もお手伝いさんも近くで発見され死亡が確認されたそうです。50年も経つ今でも助けを求める母親の声が耳に残っています。もうすこし早く避難していれば死ななくてすんだのに……

3人が必死になってしがみついていたお地藏様は、いまは大円寺の境内に移設されています。

② 体験者談

貞方自転車商会

貞方安久さん 75歳

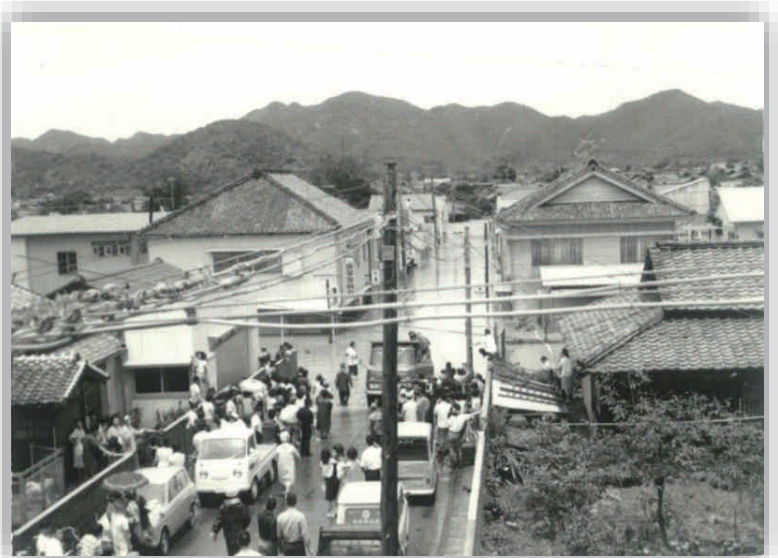
貞方スミエさん 94歳

貞方洋子さん 72歳



貞方安久さん

店舗と避難場所



避難した場所

「必死になって店舗商品と仏壇を2階へ担ぎ上げました」

開田町で自転車店を営む貞方さんによると、8日夜から降り出した雨は朝になると一層激しさを増し、親指ほどの大きな雨粒がガラス窓を叩き、辺りは霧がかかったように霞みました。

店舗の前の道路は川になり、道路が下り坂であることから勢いを増した濁流は激しく音を立てて低い住宅地や道路を通過し福江橋へと流れていきました。

福江橋は流れ着いた多くの木材や家財でせき止められ、水かさが増していきました。午前9時頃になると、店舗への浸水が始まりました。

貞方家では4月に父を亡くし、私（安久さん）もけがで入院中でしたので、店にいた母（スミエさん）と妹（洋子さん）は、女2人で店舗内の自転車や工具そして3か月前に亡くした父の仏壇を必死で2階へと担ぎ上げました。自転車は重く、へとへとになりながら担ぎ上げ終えたときには、水は階段の5段目まで来ていました。

サイレンの鳴るなか、濁流となって流れる市道を見て恐怖に震えていましたが、助けに来てくれたボートに乗ることができ、本町の高台に避難することができました。

そこには避難した開田町の人たちが集まっていました。

昼過ぎには雨も小康状態となり水位も徐々に下がり始め、やっと安心しました。

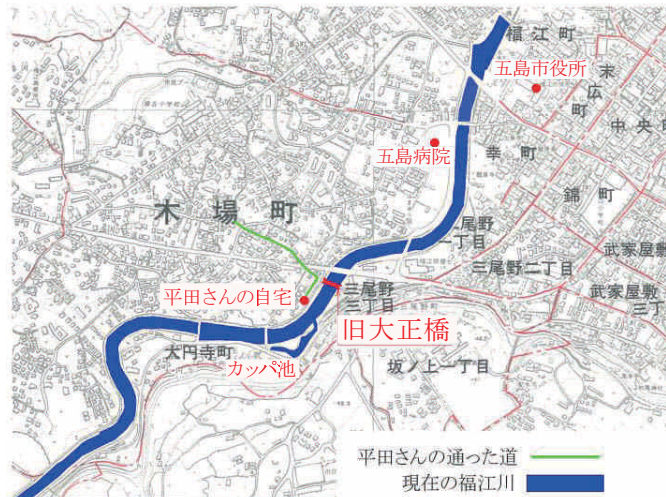
水が引いた後の復旧作業が大変で、身の回りの洗いものから始まり、土砂の掃き出し、店舗の清掃、店舗機材の復旧に一ヶ月以上を要しました。

③ 体験者談

平田 庄蔵 さん 85歳



当時を振り返る平田庄蔵さん



平田庄蔵さん宅と氾濫したカッパ池周辺

「川の異変を感じた私たちは家をそのままにして避難しました」

私の家は福江川に架かる大正橋の上流の少し高いところに建っていました。

家の前には田んぼがあり、その先には狭く曲がりくねった福江川が流れていて、毎日のように川の様子を眺めながら生活していました。

9日は日曜日でした。朝食の時間になるころだと思います。雨がだんだん強く激しさを増してきたため、異変を感じた私は福江川に目をやると、川は増水をはじめ、やがてその濁流は堤防を越え、田へと流れ込み、周囲は一面海のようになっていました。

下流を見ると大正橋の橋脚と橋げたに木や家具などが引っ掛かり、水位が目に見えて上昇し始めていました。

その当時、私の家の周囲はほとんどが農地で、住宅は他に2軒くらいしかなかったと思います。とりあえず隣の新婚さんに避難しようと呼びかけ、私たち家族6人は家はそのままにして、炊飯器を持って木場の妹の家へと向かいました。

道すがら会う人からは「なんごっかな炊飯器どんもって」といわれ、水害から避難していることを説明しました。

昼過ぎになると雨も小康状態となったため、自宅を見回りに戻ったところ、職場の同僚たちが大勢駆けつけて、家財道具や畳を家の外へ運び出してくれており、大変助かりました。

災害後は、大勢の人手を借りて自宅の清掃をし、1ヶ月ほどで日常生活に復帰することができました。

私の場合は直接的な住宅被害を受けなかったのが不幸中の幸いでした。

水害の2日後には、自宅の水路で亡くなられていた方の遺体が見つかり収容されたことを家内から聞きました。この話は後日談で腐乱死体があまりに怖かったので私には内緒にしていたとのことでした。

④ 体験者談

旧福江市市民課勤

萩原 利彦 さん 81歳



突然の豪雨で行政機関はマヒ状態となり、船により庁舎へ向かう関係者ら

「冠水により応援職員も集まらず大変苦労しました」

私は災害当時、福江市の市民課に勤務しておりました。災害の前日（8日）は土曜日で宿直当番であったため、職員2名で市役所に待機していました。

明け方になると雨あしが強くなったので見回りに行ったところ、市役所前の駐車場は冠水し、8時30分頃になると正面玄関の階段に迫ってきました。

宿直の見回りで9時30分頃、市役所1階のフロアーにある市民課、税務課、水道課等を巡回しましたが水位は床まで達していませんでした。

しかし、10時頃になると1階の床上まで水位が上昇してきたため、書類を濡らさないようにと宿直当番の人と2人で、戸籍等の重要書類をロッカーの上に担ぎ上げることにしました。書類を担ぎ上げる最中も水位は上がり続け、1階部分は最高、床上1メートルまで水位が上がり、地下にあったボイラー室は水没していました。

市役所敷地は全て冠水したため、車庫の公用車やトラック、バイクも全て水浸しになりました。

冠水により職員は船に乗らないと庁舎に入ることができない状況であったため、急を要する応援職員も集まらず大変苦労しました。

水が引いた後には、市役所前の駐車場は大量の土砂と瓦礫で埋もれていました。その後、職員や多くの市民、自衛隊員の応援を受けて復旧作業にあたりましたが多くの時間を要しました。



洪水あとの瓦礫（正面玄関）

2. 大水害の概要



平成29年は、死者11名、家屋全壊35戸など、多くの被害をもたらした福江川の氾濫から50年の節目の年。当時の状況をまとめました。

① 災害発生のドキュメント

この年は年始から異常気象が続いた。

年始の寒波、春先の高温多雨、5月から6月の異常渇水に続き6月末から7月上旬の短い梅雨期となった。このタイミングに発生したのが豪雨災害である。

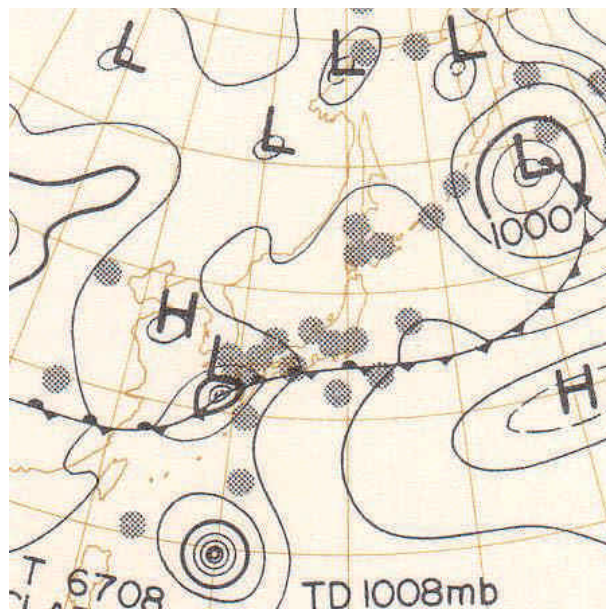
この豪雨災害は集中豪雨として西日本各地を襲い福江市、長崎県佐世保市、広島県呉市、兵庫県神戸市と広い範囲で猛威をふるい異常ともいえる期間降水量を記録している。

気象庁は昭和42年7月7日～10日までの大雨を「昭和42年7月豪雨」と命名した。

「昭和42年7月豪雨」

- 発災日時 7月7日～7月10日
- 被災地域 九州地方北部から中部地方
- 災害の気象要因 梅雨・温帯低気圧

昭和42年7月9日午前9時の
気圧配置図



佐世保測候所 降水量時系列図

福江大水害『1967年(昭和42年)7月8日～7月9日』の状況

- 7月8日午前9時頃 台風7号沖縄西方にて熱帯低気圧に変わり梅雨前線を刺激
- 7月9日午前9時頃 五島列島付近で熱帯低気圧は温帯低気圧に変わり梅雨前線を関東方向に移動
- 7月9日午前9時頃 時間雨量 113.5ミリを観測。大雨警報発令
- 7月9日午前11時頃 満潮の時間帯と重なり河川が氾濫
- 7月9日正午頃 家屋損壊、福江市役所、五島支庁1階浸水
- 7月9日午後2時頃 記録的豪雨は期間降水量300ミリを突破
- 7月9日午後3時頃 電話不通、大規模停電発生

② 福江市の被災状況

昭和42年7月8日、台風7号くずれの熱帯低気圧と梅雨前線が生んだ集中豪雨は、8日の降り始めから9日午後2時頃までに300ミリを突破する降雨量を記録しています。特に9日午前中の3時間に215ミリが集中して降りました。

9時から10時までの1時間の雨量は99.2ミリで、昭和31年10月8日の福江測候所の最高記録85.6ミリを上回りました。

この豪雨は午前11時の満潮と重なったこともあり、福江川が氾濫し流域に多くの被害をもたらしました。

商店街や住宅は冠水し、水が引いた後はドロ沼と化し、悪臭が鼻をつきました。また、河川護岸の崩壊や田畑の冠水がいたるところで発生しました。

福江大水害の範囲



被害状況

人的被害 (旧福江市のみ)	死亡	11人
	重症者	7人
	軽傷者	24人
	計	42人
浸水面積	宅地	19ha
	農地	101ha
	計	120ha

罹災世帯 (旧福江市のみ)	全壊	0世帯
	半壊	17世帯
	一部倒壊	4世帯
	床上浸水	4,657世帯
	床上浸水	1,700世帯
罹災世帯	一部倒壊	7世帯、104平方メートル
	床上浸水	13、120平方メートル
	床上浸水(農地)	10、170平方メートル
	計	87、400平方メートル